

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市戦災復興記念館	
2 指定管理者	仙台ひとまち交流財団・東北共立グループ	
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 区分貸し施設 7,567人（前年度比22%）R1年度33,749人 H30年度 34,970人 H29年度 35,477人 時間貸し施設 35,986人（前年度比42%）R1年度85,613人 H30年度 94,392人 H29年度 97,035人 資料展示室 5,333人（前年度比58%）R1年度9,115人 H30年度 7,124人 H29年度 7,417人 H30年度2/6～3/31照明工事のため資料展示室休館 R2年度4/15～5/18新型コロナウイルス感染症拡大防止のため資料展示室休館 R2年度 新型コロナウイルスによる使用取消申出（1,006件）	
	戦災復興記念館の施設維持・運営管理 自主事業の開催 戦災復興展の開催	
5 収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 127,758千円 （124,901千円） ・ その他市が負担した費用 14,612千円 （999千円）	
	《収入》 ・ 使用料収入 16,660千円 （34,919千円） ・ その他収入 1,033千円 （757千円）	
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケートの調査（調査票配布期間令和2年2月1日から令和2年2月29日） 運営懇話会 令和元年5月7日 資料展示室アンケート	

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	戦災復興記念館の設置目的を十分に理解し、業務を遂行している。また、1階グラウンドロビー、楽屋の白熱電球をLED電球へ交換し、省エネに務めた。	45/45
II 施設の運営管理体制	適切な人員配置を行っている。また、催事の際に利用者からの要望に応じて、開館時間より前の入館についても柔軟に対応している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	定期的な点検や迅速な修繕対応により、事故もなく、適切に施設の安全が保たれている。外構のタイルが次々と剥離しており、修繕が追い付かない等あるが、利用者の安全は確保した運営を行い、適切に施設の安全が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	利用者アンケートにて、対応について丁寧で分かりやすいなど一定以上の評価を得ている。	28/28
V 施設固有の基準	教育機関との良好な関係を築き、連携して平和学習などの事業を通して、戦争について学ぶ機会づくりに努めている。	3/3

三 評価総括

《指定管理者（仙台ひとまち交流財団・東北共立グループ）による自己評価》

運営管理にあたり、歴史資料施設・文化芸術施設・地域施設という施設の3つの特性を踏まえ、次の各運営方針を掲げ、各種事業に取り組んでまいりました。また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から様々な対策をとりました。「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」をはじめ、独自にチェックシートを作成し、大規模施設（記念ホール・展示ホール）の催事主催者に感染拡大防止策の徹底をお願いしました。

①歴史資料施設として、戦災と復興の歴史を記録し、世代を超えて語り継いでいく拠点施設として運営します。

見学に訪れる子供たちや出前講座の児童向けの「戦中戦後の暮らし」により判りやすく学んでもらえ、クイズラリーも実施しました。市民センターとの共催事業の実施も増え、伝統門松の展示等の各種事業に参加し、様々な主体による語り継ぐかたちの多様性の確保を目的に、各方面への情報発信や連携強化に努めました。

②文化・芸術活動の促進を図る事業の実施や施設環境の向上に努めます。

既述のピアノコンサートの他、舞台技術をより身近に感じていただくよう、舞台まめ知識ボードのバックナンバー展をロビーにて開催しました。

③大町・立町・肴町界隈の住民組織と共に地域コミュニティの発展に寄与します。

「クラシックエール仙台」プレ・コンサートの開催や、地元町内会の非常食や災害用品の預かりを受入れております。

戦後75年を迎え、語り部の方々の高齢化や戦災に対する意識の低下を懸念しつつ、様々な事業を模索展開していることは、胸を張れるものと自己評価しております。この成果・実績を踏まえ、次期指定管理期間において、さらに各種事業の水準を高め、資料展示室の充実や記念館外での伝承事業の拡大、地域との連携協働、施設利用満足度の向上に一層励んでまいります。

《施設設置者（仙台市）による評価》

総合評価

戦災復興記念館の設置目的を理解し、歴史資料施設・地域施設等多様な側面を踏まえた施設として運営、管理を行っている。

協力事業である戦災復興展においては、戦後75年という節目であったものの、新型コロナウイルスの影響により、例年とは違い展示のみの開催となった。しかし、開催期間を例年よりも長期とし、中止になったコンサートをミュージックビデオとして復興展期間中にロビーに設置したことやYouTubeで周知するなど、青葉区まちづくり推進課と連携して工夫を重ねたことで、入場者数も3000人以上となり、大きな事故もなく無事に開催できたことは評価に値する。

S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

施設の使用料の新型コロナウイルスに関する減免について、青葉区まちづくり推進課と連絡を密にし、適宜適切な対応を行った。

◎ 評価担当課（施設所管課）：青葉区まちづくり推進部まちづくり推進課